

琉球大学学術リポジトリ

日米関係（沖縄返還）10

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-02-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43785

大正
二
年
八
月
一
日
（
一
〇
三
〇
）

敷行した。
(A) お札の要求は、^{本土法が適用はなす}差別と見なされ、
米施政下の営業権や契約の尊重、内国
民行~~は~~遇がその骨子と見られる。

(B) 企業の一例にパン板工業があり、これは米
軍の需要を賄っているため沖縄のみならず
フィリピンにも輸出している。自下債務負担が
重く、規模を拡張して外に出るには、先行
不安に感じている。

(1) 大臣が本問題について、日本側もお札の
事情は理解できなくもないが、何らかの対策
措置を検討してみようかと述べている。

(2) 大臣が本問題について、日本側もお札の
事情は理解できなくもないが、何らかの対策
措置を検討してみようかと述べている。

(3) 大臣が本問題について、日本側もお札の
事情は理解できなくもないが、何らかの対策
措置を検討してみようかと述べている。

(4) 沖縄住民一部の復帰反対論
大臣が最近米議会に対し沖縄住民が

(他) 二の故郷に日本統治の場に出たのを思わせる混乱の
原因と見られる。このため、総理訪米後、いつか検討したい。

復帰尚早論や住民投票を求めた投書が
数多く米議会に寄せられている。自分では

沖縄住民の大多数は復帰を求めていると了解
しているが、如何を之うか、と述べたのに対し、

大臣がこれは一部至痛人の企業防犯の在り
対米政府条件と争っていると見ると答えた。

2. 総理訪米 (佐藤三ツツ会談)

(1) フィリピン

(a) 大臣が 前日 大使が、総理が 大蔵館に於

てフィリピンについての苦言と努力に対し理解と同情を
示す要があると言われたのに、感銘を受けた。

本日北原、駐越大使と同道し総理と三ツツの真
会話を話さうと述べている。

(b) 大使が 2日前 本国の訓電を携へて

さらに私に助言し、大塚もその
不干渉主義を唱える同僚と二分する

コメント、大塚の先般の「日米軍国主義をアテアテ
敵」との成田発言は同僚の焦りを示し

指摘した。

3. 本土米軍基地管務者の整理
(別途 米保主管記録参照)

4. フォース対策

協議の結果「総理、ニフソン公使の議題
に引き継ぎし、公使の基調は 1970年代
の日本関係)
を長期的かつステータス的な観点より展望
することは一致した」と説明するにとどまった。

CONFIDENTIAL

CONFIDENTIAL

84
糸

Prime Minister Sato-President Nixon Talks

- Suggested Agenda and Schedule -

October 30, 1969

November 19 (Wednesday)

11:00 - 13:00 First Meeting

1. Okinawa Reversion
2. International Affairs
 - (1) Viet Nam
 - (2) Asia (China, Divided States etc.)
 - (3) U.S.-U.S.S.R. Relations
 - (4) Disarmament (NPT etc.)

November 20 (Thursday)

11:00 - 13:00 Second Meeting

3. Review of Japan-U.S. Relations in 1970's
 - (1) Post-Okinawa Relations
 - (2) Security
 - (3) Asian Stability (Roles of Japan, U.S.)
 - (4) Economic Aid (Post-Viet Nam)
4. Immediate Japan-U.S. Bilateral Relations (Economic Problems etc.)

November 21 (Friday)

10:00 - 10:45 Third Meeting

4. (Continued)
5. Others (If any)
6. Final Agreement on Communique

アメリカ局長 別途本信の回覧
事務官

極 秘

大臣 次官	第1長 第2長 第3長	米局長 米参事 米次長	アソフ局長 アソフ1長
----------	-------------------	-------------------	----------------

ワシントンに因り米側の手日申入出

44.10.30

(米比-長記)

本30日朝 沖縄問題に因り愛知大臣・
日代一駐日米大使公使に於いて「米大使

より本国の訓令(若干公館への合電による由)
に基づくものとして 御座るの文書^を手交し、^{その}下の
要旨下記1 (付対別添)

如く補足説明した。(有文書は同日午後総理に報告す)
(要旨下記2)

1. 文書要旨

(1) フラン大統領は9月18日の国連総会演説に於いて
愛の国が北煤を止停止すれば平和が実現すると

北煤を止せと懇起し、各国が11月か
まで和平交渉に身を入らざる外交的義務を

を要する。北煤停止時 亦も他の国と
同様 11月かには北煤を止せざる要する

24日か、遺憾なく 11月かに入る動きを示し
てあり。

(2) 過去18ヶ月の米国の和平努力の功績:

- (1) 北煤一部Aを全面停止
- (2) 本年5月14日のフラン和平提案
- (3) 7月11日のフ-南越大統領提案の支持
- (4) B-52南煤減少
- (5) 8月21日のLP-1国防長官スタートメント

(2) 12月15日 最低6ヶ月の半軍の引揚が

(3) 以上もかゝり、11月かには止せしむる。大つて

極 秘
無 期 限
2 部 の 内
之 号

(10A300-874-1120472)
* 01121

SECRET

In his speech to the United Nations General Assembly on September 18, President Nixon recalled that many nations had insisted that, if the United States were to halt the bombing of North Vietnam, peace would follow; and he urged the nations of the world to use their diplomatic efforts to persuade Hanoi to move seriously into negotiations.

We appreciate the fact that when the bombing of North Vietnam was halted, Japan was among those nations which joined with the United States in insisting that the North Vietnamese reciprocate this action. Regrettably, however, the Government of North Vietnam has still not seen fit to take such reciprocal action.

In the course of last 18 months, the United States has taken a number of steps designed to bring about a commencement of serious peace negotiations. These steps include:

1. Partial cessation of the bombing of North Vietnam in March 1968, and total cessation in November 1968.
2. President Nixon's peace proposals of May 14, 1969, which included mutual withdrawal of the major portions of U.S., allied, and other non-South Vietnamese forces over a 12-month period, cease-fires under international supervision to facilitate the process of mutual withdrawal, and free elections under international supervision.
3. Endorsement of President Thieu's proposals of July 11, 1969, for free elections, which included provision for an electoral commission with NLF representatives to assure equal opportunities to all candidates and to assist in watching the polls and in counting the votes.
4. A reduction in the number of bombing sorties by B-52's in South Vietnam.

SECRET

SECRET

2

5. A statement by Secretary of Defense Laird on August 21, 1969, that American commanders in Vietnam are not under orders to exert maximum military pressure.
6. Removal of a minimum of 60,000 American troops from South Vietnam by December 15, 1969.

Despite these steps, there has been no effort on the part of Hanoi to undertake serious talks which might lead to peace in Vietnam. It is time for Hanoi to take such steps. It is hoped that the Japanese Government, through whatever channels may be available to it, may find it possible to convey to Hanoi or to its allies an endorsement of the efforts the United States has made for peace and the hope that the North Vietnamese might now make some move in that direction.

SECRET

大統領は予算を利用して、776.1トマン
の地元の自助努力の支援のプロジェクト
(目的)

あり、整理の真の原因も同プロジェクトにあると
付言した。

2. 次いで同大佐より、人員整理は人道的に2020年
卒の2020年あり、2020年2020年日米関係に

悪影響を及ぼすことを回避するため、
整理人員の再就職支援、牛嶋の介 (1022、6月政府の発表の1022)

776に強力に推進する決意を述べた。
昨日大佐管内にオホソノ公使工長と773

特別班を編成し、在日米軍号簿長、大佐
管の774にA20 在日米財界人代表を

入札で競売検討中である。また3組は
在日米企業に整理人員の2020の帰国

(技能その他詳細)を控出し、出まると
474とせよ = 2020、自分2020年有脱を

入札で努力(2023、6月政府と774に協力
した、と述べた。

3 = 2020に対し、大佐より大佐の陣頭1022の
配慮を感謝し、管の大佐と774を

と2020善処に行くと
(6月側) 774の整理 774の整理、A20 現在の
人手不足より、774を2020年774に

774は、再就職は困難であると思うと
述べた。

4. 右大佐より立川基地の離職者700名に
言及し、774を2020年検討中である。但し700

と1022も、欠食とか、横田基地への配給者2020
くと、奥の2020年人数が少く、2020年と述べた。

05/03

3. アメリカ局ブリーフ(30日)

○アイチ・マイヤー会談

全体として35...6分の間、主としてサトウ・ニクソン会談の議題について検討した。ただし細かい題目一つ一つでなく、会談全体の基調をどうするかについて話し合い、双方とも会談はS.T.A.とN.A.N.L.I.K.E.に世界的かつ長期的展望に立つた大問題(1970年代の世界における日米関係と夫々の役割及び、ヴィエトナムや軍縮など)について大所高所から論ずることとすべきであると一致した。この点マイヤー大使から本國に意見具申すると思う。またせん維等日米経済問題等についてはこちらがいやと言つても米側から出して来るだろうから、議題にはなるうが、もち論主たるものではない。

(質問に答え) オキナワ問題は、今まで日米双方とも最も努力して来たことだけに、早くかたづけたい。本当のトップになるかどうかはわからないが、初日に出るのは当然だろう。本日のアイチ・マイヤー会談では共同声明について詳しくは論じ合わなかつた。双方の全般的な考えは大體固まっており、話すことはもう余りないためだろう。コミニケの進ちよく状況については、核以外の点についてもまだ完全に出来上つたとはいえないが、アイチ流に言えばえんびつの段階は過ぎペンとタイプライターの間というようなところだ。今後のアイチ・マイヤー会談のテーマは特に決つておらず、その都度事前に相談して決めて行くこととなろう。